

コンソーシアム名	E S L ( エコスマートライフ ) ~生活環境デザインプロジェクト~
研究メンバー	三宅理一 ( リーダー )、伊藤滋、塚越功、渡邊朗子、 斎藤信男、金安岩男
コンソーシアム研究概要	<p><b>目的：</b></p> <p>本研究コンソーシアムは、未来の地球環境、現代の家族問題を含む社会環境、IT など先端技術環境の動向を踏まえながら、人間生活と環境のニーズに即した豊かな住環境デザインの構築と供給を目指し探究することを目的とする。人間 環境系のデザイン思想を基に、工学からの発想ではなく、来る知識創造社会にふさわしい人間中心の住まい方とはいかなるものか、人間と環境を結びつける「情報」という観点から住環境のあり方を捉えなおす。</p> <p>日本の住宅は、これまで経済産業優先の発想から生活に合わないモジュール設定や近隣との調和を無視した「思想のみえにくい」かたちで住環境が建設されてきた。</p> <p>本コンソーシアムでは、未来の「住」を「人間」「技術」「環境」「社会」の4つの軸から「エコスマートライフ」を実現する住環境のあり方を問い直し、既往の住居学等の枠組みを超えた生活環境デザイン学の確立と、生活産業のインフィル分野での新しいビジネス開発を射程に研究を進めるものである。情報技術を活用し、住まい手の立場から供給の仕組みを再編成し、成熟した市民社会にふさわしい価値創造型の住まいを築いていくことが目標となる。</p> <p>本コンソーシアムでは、国際的な取り組みを前提として米国のフランクロイド・ライト財団の協力を得、これからの日本の住環境デザインに向けた課題を抽出し、今後のより高質な住環境の提供の仕組みとその総合的な住環境評価基準を探究していく。</p> <p><b>研究内容：</b></p> <p>本研究プロジェクトでは、主にライフスタイル、ワークスタイル、資材流通、設計プロセスにユビキタスコンピューティング、IC カードなどの IT を介在させることによる将来的な可能性を探究することから未来の住環境モデルを構想する。</p> <p><b>1 IT ライフの研究</b></p> <p>ブロードバンド、ネットワーク家電、センサーメディア、ロボット技術等の先端 IT がもたらす生活と住環境について研究する。</p> <p><b>2 IT 資材流通の研究</b></p> <p>資材そのものに IT を埋め込んだ IT 資材により環境はさらに情報化することになる。その方法と将来的利用形態について研究する。</p> <p><b>3 SOHO テレワーク：新しい働き方と住環境</b></p> <p>SOHO,テレワークなど在宅で仕事をおこなう働きかたが増えてきている。その背景を踏まえて住環境における今後の課題について考察する。</p>

#### 4 ハウジングプレタポルテ：ネットワークマッチングによる住宅の作り方

施主、設計者、工務店、各業者をネットワークによりマッチングさせ、創造プロセスから資材の調達まで効率化することにより実現する低コスト住宅を研究する。

##### 研究方法：

不動産、設計、資材供給を繋ぐモデル事業の立ち上げ

参加企業・団体のなかでの役割分担を明確にし、情報システムの規格化と共有をはかり、ユーザー・オリエンテッドな企画・設計から流通の仕組みを構築する。

業界、学会を横断する研究会

住環境をとりまく関連問題の講義式セミナーを開催し、日米の市場調査結果を含めた最新の動向を把握する。

モデル住宅の計画と設計

ワークショップ（年2 - 3回程度開催予定）を介在させ、関係者によるコラボレーションをもとにエコスマートハウスのデザイン戦略を構築し、その供給に際した問題点やビジョンを共有、探究する。

研究成果を還元するためのレクチャ・シリーズ

丸の内キャンパス（MCC）を用いた社会人教育のための講座をつくり、研究成果を

広く一般に還元する。

##### 期待される成果と目標：

- ・ **知識創造社会にふさわしい未来の住環境モデルを構築する**

従来のLDK思想にとらわれないテレワーク社会のための自由な空間のモデルを構築し、情報と生活が共存する新世代型住宅の開発がもたらされる。

- ・ **知識創造社会にふさわしい未来の住環境に向けた資材流通システムを開発・構築する**

ICカードにより資材提供側と企画設計側の情報環境を整備し、住まい手と供給側の双方向の対話を経た設計プロセスが確立される。

- ・ **未来の住環境を取り巻く生活インフィル産業における新規ビジネスを探究する**

サポート・インフィル型住宅供給の仕組みの中で、比較的短い期間で更新されるインフィルの可能性を探る。